

令和4年度 決算概要（連結）

（単位：億円（単位未満切捨て））

区 分	令和3年度 決算 A	令和4年度 決算 B	対前年増減額・率		令和5年度 計画 ※2
			B-A	(%)	
営業収益	10,303	11,086	782	7.5%	11,506
高速道路事業	9,838	10,495	657	6.6%	10,835
(料金収入)	7,416	7,917	501	6.7%	7,061
(道路資産完成高)	2,348	2,504	155	6.6%	3,774
(その他の営業収益)	73	74	0	0.6%	-
関連事業	555	672	116	20.9%	677
(SA・PA事業)	248	311	63	25.5%	316
(受託・その他の事業)	307	360	53	17.2%	361
セグメント間取引の消去	△ 90	△ 81	8	-	△ 7
営業費用	10,351	11,137	786	7.5%	11,469
高速道路事業	9,871	10,572	700	7.0%	10,823
(道路資産賃借料)	5,168	5,579	411	7.9%	4,666
(道路資産完成原価)	2,348	2,504	155	6.6%	3,774
(管理費用等)	2,355	2,488	133	5.6%	2,382
関連事業	570	647	77	13.5%	653
(SA・PA事業)	267	288	20	7.6%	298
(受託・その他の事業)	302	359	56	18.7%	354
セグメント間取引の消去	△ 90	△ 82	8	-	△ 7
営業利益（△損失）	△ 47	△ 51	△ 3	-	37
高速道路事業	△ 33	△ 76	△ 43	-	12
関連事業	△ 14	25	39	-	24
経常利益（△損失）	△ 12	△ 17	△ 5	-	45
税金等調整前当期純利益（△損失）	△ 3	12	16	-	45
法人税、住民税及び事業税	10	10	0	6.9%	6
法人税等調整額 ※1	0	△ 71	△ 72	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益（△損失）	△ 14	73	88	-	38

※1）令和4年度の法人税等調整額は、ロッキング橋脚の橋梁に対する跨道橋耐震対策事業の完了等に伴い、業績が回復する見通しを踏まえて計上するものです。

※2）令和5年度計画は、一定の前提・予測に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により、上記計画と異なる可能性があります。

（注）当社グループの事業区分及びその主要内容は、以下のとおりです。

事業区分	主要内容	
高速道路事業	高速道路の新設、改築、維持、修繕、災害復旧その他の管理等	
関連事業	SA・PA事業	高速道路の休憩所、給油所等の建設、管理等
	受託事業	国、地方公共団体等の委託に基づく道路の新設、改築、維持、修繕等、その他委託に基づく事業等
	その他の事業	駐車場事業、トラックターミナル事業等

■ 通期営業損益(連結)の解説

(1) 高速道路事業

- 高速道路事業の営業収益は10,495億円となりました。(前年度比657億円の増)
 - ・料金収入については、前年度に比べて交通量の回復^{※1}に伴う増収により、前年度比501億円増の7,917億円となりました。
 - ・道路資産完成高^{※2}(独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構(以下「機構」)に引き渡す高速道路資産の譲渡高)については、首都圏中央連絡自動車道(久喜白岡JCT~幸手IC間、境古河IC~坂東IC間)の4車線化事業や高速道路リニューアルプロジェクトの推進等により、前年度比155億円増の2,504億円となりました。
 - ※1 通行台数 291万台/日(前年度比6.4%増)
 - ※2 主な開通等
 - ・令和3年度……常磐自動車道 いわき中央IC~広野IC 4車線化
 - ・令和4年度……首都圏中央連絡自動車道 久喜白岡JCT~大栄JCT 4車線化
 - 仙台南部道路 今泉IC~長町IC 4車線化
- 高速道路事業の営業費用は10,572億円となりました。(前年度比700億円の増)
 - ・道路資産賃借料^{※3}については、前年度比411億円増の5,579億円となりました。
 - ・道路資産完成原価(高速道路建設に係る費用)については、道路資産完成高と同額の2,504億円を計上しています。
 - ・管理費用等については、光熱費・材料費等の増加により、前年度比133億円増の2,488億円となりました。

なお、当該管理費用等には、高速道路の安全な交通を確保するため、自治体等が管理する高速道路を跨ぐ道路(跨道橋)のうち、ロッキング橋脚の橋梁に対する耐震対策事業(以下「跨道橋耐震対策事業」)70億円が含まれております。当該事業は高速道路事業の利益剰余金を原資とした「跨道橋耐震対策積立金」等を活用しており、令和4年度ですべて完了しました。

 - ※3 道路資産賃借料について
料金収入の実績が、機構と高速道路会社(以下「会社」)との協定に定める計画収入の一定割合を超えて変動する際には、一定割合を超える部分について会社から機構に支払う道路資産賃借料を加減算する仕組みとなっております。
令和4年度については、協定に基づく道路資産賃借料の年度計画額に対し、833億円の加算となりました。
- この結果、料金収入は増収となったものの、道路資産賃借料及び管理費用等の増加により、高速道路事業では、76億円の営業損失(前年度は33億円の営業損失)となりました。

なお、跨道橋耐震対策事業を除いた場合は、5億円の営業損失となります。

(2) 関連事業

- SA・PA事業の営業収益は311億円となりました。(前年度比63億円の増)
 - ・前年度に比べ、交通量の回復に伴い店舗売上^{※4}が増加したことによるものです。
 - ※4 SA・PA店舗売上高(飲食物販等) 1,532億円(前年度比20.0%増)
- SA・PA事業における営業費用は288億円となりました。(前年度比20億円の増)
 - ・店舗売上の増加に伴い売上原価等が増加したことによるものです。
- この結果、SA・PA事業では23億円の営業利益(前年度は19億円の営業損失)、受託事業・その他の事業を加えた関連事業全体では、25億円の営業利益(前年度は14億円の営業損失)となりました。

【参考】令和4年度 決算概要（個別）

（単位：億円〔単位未満切捨て〕）

区 分	令和3年度 決算 A	令和4年度 決算 B	対前年増減額・率	
			B-A	(%)
営業収益	10,119	10,861	741	7.3%
高速道路事業	9,778	10,436	658	6.7%
(料金収入)	7,416	7,917	501	6.7%
(道路資産完成高)	2,348	2,504	155	6.6%
(その他の売上高)	13	14	1	8.3%
関連事業	341	425	83	24.4%
(SA・PA事業)	71	90	18	26.4%
(受託・その他の事業)	270	335	64	23.9%
営業費用	10,220	10,979	758	7.4%
高速道路事業	9,861	10,557	695	7.0%
(道路資産賃借料)	5,168	5,579	411	7.9%
(道路資産完成原価)	2,348	2,504	155	6.6%
(管理費用等)	2,345	2,473	128	5.4%
関連事業	359	422	63	17.5%
(SA・PA事業)	88	85	△2	△2.8%
(受託・その他の事業)	270	336	65	24.2%
営業利益（△損失）	△100	△117	△16	-
高速道路事業	△83	△121	△37	-
関連事業	△17	3	20	-
経常利益（△損失）	△64	△78	△13	-
税引前当期純利益（△損失）	△58	△47	11	-
法人税、住民税及び事業税	△16	△14	2	-
法人税等調整額 ※1	-	△68	△68	-
当期純利益（△損失）	△41	35	77	-

※1) 令和4年度の法人税等調整額は、ロッキング橋脚の橋梁に対する跨道橋耐震対策事業の完了等に伴い、業績が回復する見通しを踏まえて計上するものです。

【参考】令和4年度のトピックス

【高速道路事業】

■安全で快適な高速道路の整備(4車線化)

渋滞の緩和並びに安全かつ円滑な交通の確保のため整備を進めていた、仙台南部道路の今泉ICから長町IC間の2.9kmの工事が完成し、令和4年12月15日から4車線運用となりました。また、首都圏中央連絡自動車道の4車線化工事(久喜白岡JCTから大栄JCT間の92.2km)のうち久喜白岡JCTから幸手IC間の8.5km、及び境古河ICから坂東IC間の9.1kmが令和5年3月31日から4車線運用となり併せて、当該区間の最高速度が70km/hから80km/hに変更となりました。



仙台南部道路 長町 IC



圏央道 久喜白岡 JCT～幸手 IC 間

■高速道路リニューアルプロジェクト(機能の向上と長寿命化)

高速道路のネットワーク機能を長期にわたって健全に保つため、老朽化した橋梁の対策工事やトンネルの補強工事などを実施しています。令和4年度においては、横浜横須賀道路 釜利谷JCT～朝比奈IC間の釜利谷第二高架橋など、29橋の床版取替工事、4本のトンネルのインバート設置工事を完了しました。



横浜横須賀道路 釜利谷第二高架橋の床版取替工事



道央自動車道 夕張川橋の床版取替工事

【関連事業】

■SA・PA商業施設のリニューアルオープン及びサービス・利便性向上

令和4年7月に、東北自動車道 佐野SA(下り線)が地域色豊かなドラマチックエリアとしてリニューアルオープンし、令和5年3月には、リニューアル第2弾として別棟カフェがオープンしました。「佐野パークSA」をコンセプトに、地域とタイアップした心弾む商品や地元愛あふれるグルメの数々をお楽しみいただけます。また、お客さまへのサービス・利便性向上のため、令和3年度に引き続き令和4年度においてもシャワー設備(24時間営業)を新たに2店舗〔塩沢石打SA(下り線)・千代田PA(上り線)〕整備しました。



東北自動車道 佐野SA(下り線)



常磐自動車道 千代田PA(上り線)